

交通安全の願いを込めて

七夕交通安全キャンペーン

七夕を前にした7月5日、交通安全「織り姫・ひこ星セーフティー七夕作戦」の街頭キャンペーンが総合体育館前の国道443号線で行われました。

これは、交通事故が増える夏場をひかえ、交通死傷事故を抑止し、減少傾向を定着させようと御船地区交通安全協会（西口俊一会長）

が、毎年、警察などと連携して実施しているもので、今年で8回目を数えます。同協会の役員と指導員の計14人が、居眠り運転や飲酒運転などのない安全・安心なまちづくりのため、『交通事故多発』『飲酒運転撲滅』などののぼりを掲げ、ドライバー一人一人に安全運転を呼びかけました。



チラシとグッズを配り、ドライバーに安全運転を訴えました

トートバッグで子どもを守る

J A かみましきが交通事故防止のために寄贈

7月5日、安心して暮らせる地域づくりのため、地域の安全・安心プロジェクトを展開しているJ A かみましきの豊田良富常務から反射材付き親子トートバッグが森永教育長に贈呈されました。

大小2個のトートバッグは約2,000組用意され、町内の小学生全員に配布されます。バッグの絵柄のグレーの

部分に反射塗料が使用されており、夜道でも車やバイクのライトに反射し、運転者にその存在を知らせます。

「小学生の登下校時における交通事故防止に役立てて欲しい」という豊田常務に、「夏休みに入り、部活動など道路を使う事情が多くなるので、早速利用させていただきたい」と謝辞を述べました。



森永教育長に反射材付き親子トートバッグを寄贈する豊田常務（写真左）

激しい雨に大木も倒れる

6月の集中豪雨で町内各地に被害

梅雨前線の活動が活発だった6月中旬、県内各地を大雨が襲い、本町でも11日から13日にかけて集中豪雨に見舞われました。

阿蘇くまもと空港の雨量計では、12日の午前10時から11時までの1時間に63ミリを記録するなど非常に激しい雨が降り、3日間で約400ミリを記録しました。

この雨量は、平年の6月ひと月の雨量を超える量で、この後も激しく雨の降る日

がありました。

町内では、人的な被害はなかったものの、いたる所で住宅の裏山が崩れたり、落石、農地のあぜが崩れるなどの被害が出ました。

また風雨により、木山下町バス停の南側にある道安寺跡では、「御拝塔」と呼ばれる五輪塔・宝篋印塔の残欠の隣りに立っていたエノキの大木が根元から倒れ、同敷地内にある社殿の屋根を壊す被害を出しました。



風雨で倒れた道安寺跡のエノキ



崩れた土砂が流れ込んだ県道小池・竜田線